

近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所	配布日時	平成25年 9月19日 15時10分
資料配付		

件名	台風18号における大滝ダム、猿谷ダムの洪水対応
----	-------------------------

概要	<p>台風18号による洪水に対し、大滝ダムは防災操作を実施しました。</p> <p>●大滝ダムによる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムで約2,300万<math>m^3</math>の洪水を貯留しました。</li> <li>・ダムから下流に流す量を最大毎秒約1,000<math>m^3</math>低減しました。</li> <li>・下流の五條地点では、紀の川の水位を約1.1m低下させる効果があったと推定され、大滝ダムの防災操作により、はん濫危険水位を下回ることができたと考えられます。</li> </ul> <p>猿谷ダムは、平成24年に定めた試行運用により、事前に確保した空き容量を活用し、ダム流下量を低減しました。</p> <p>●猿谷ダムによる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムから下流に流す量を毎秒約50<math>m^3</math>低減し、風屋ダム（電源開発（株））への総流入量を約700万<math>m^3</math>低減しました。</li> </ul> <p>※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。</p>
----	--

取扱い	—
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 奈良県政・経済記者クラブ 和歌山県政記者クラブ	和歌山県地方新聞記者クラブ 和歌山県政放送記者クラブ 五條市政記者クラブ
------	---	--

問合せ先	国土交通省近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所 副所長 林 和彦 防災情報課長 早田 順英 電話 0747-25-3013
------	--

# ダム整備が効果を発揮(奈良県 大滝ダム)

おお たき

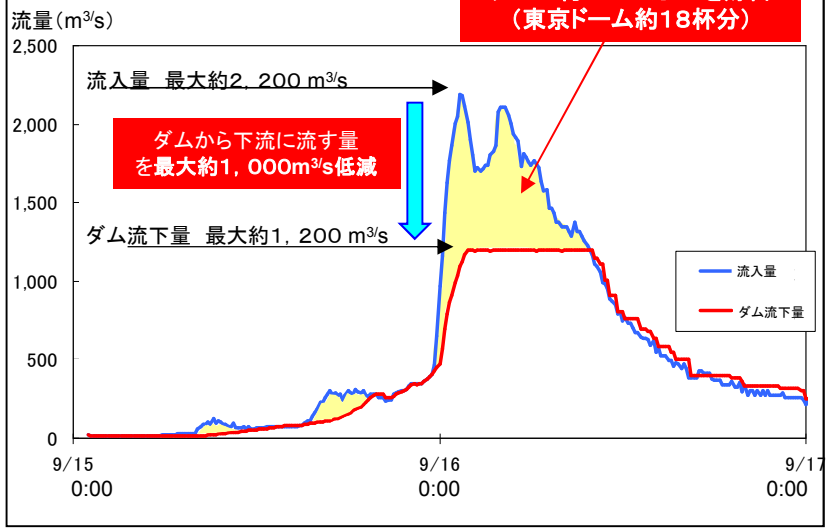
○台風18号により、紀の川水系大滝ダム上流域において、9月14日から16日にかけて、流域平均の総雨量が593mm、時間最大雨量が86mm(大台ヶ原雨量観測所)となり、ダムへの流入量がダム管理開始以降最大となる約2,200m<sup>3</sup>/sに達しました。

○大滝ダムでは、約2,300万m<sup>3</sup>の洪水を貯留し、ダム下流の五條地点(五條市新町付近)では、紀の川の水位を約1.1m低下させる効果があったと推定され、大滝ダムの防災操作により、はん濫危険水位を下回ることができたと考えられます。

## 位置図



## 大滝ダムの防災操作図



## 五條地点(大滝ダムより下流40km地点)における紀の川の水位低下効果



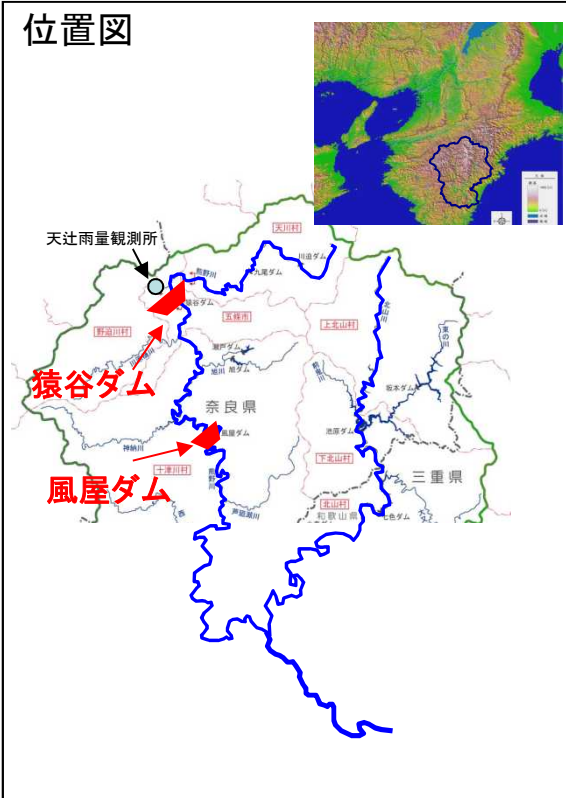
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# 台風18号における<sup>きたに</sup>猿谷ダムのゲート操作

○台風18号により、新宮川水系猿谷ダム上流域において、9月14日から16日まで、流域平均の総雨量が361mm、時間最大雨量が59mm(天辻雨量観測所)となり、ダムへの流入量が約1,400m<sup>3</sup>/sを記録しました。

○猿谷ダムでは、平成24年に定めた試行運用※に基づき、あらかじめ確保した空き容量を活用することによって、ダムから下流に流す量を約50m<sup>3</sup>/s低減し、風屋ダム(電源開発(株))への総流入量を約700万m<sup>3</sup>低減をしました。

位置図

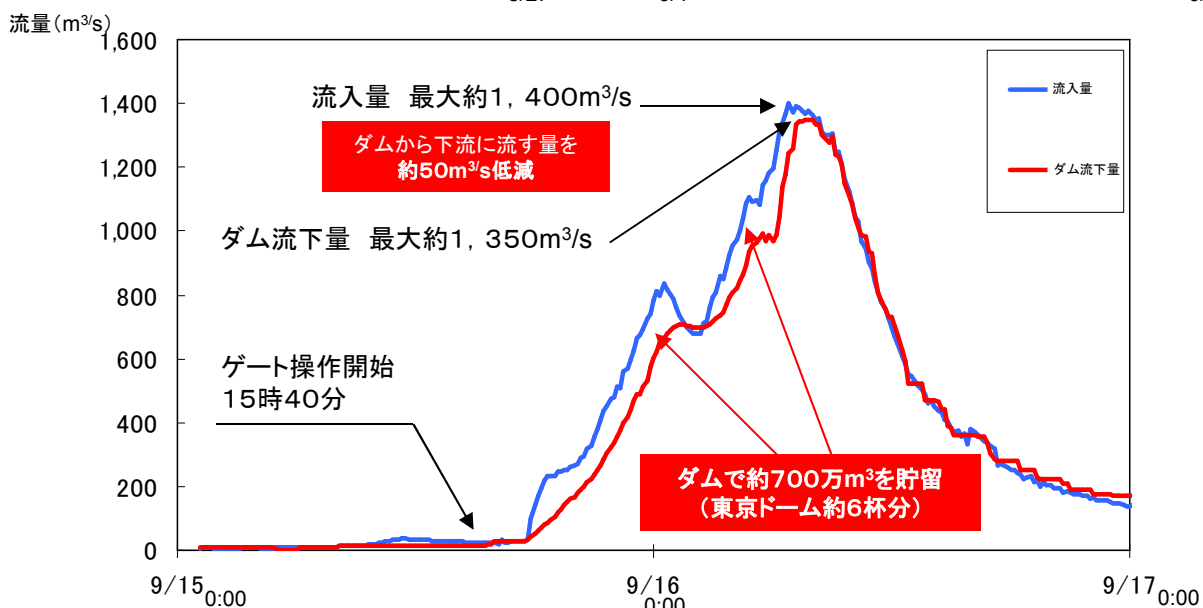
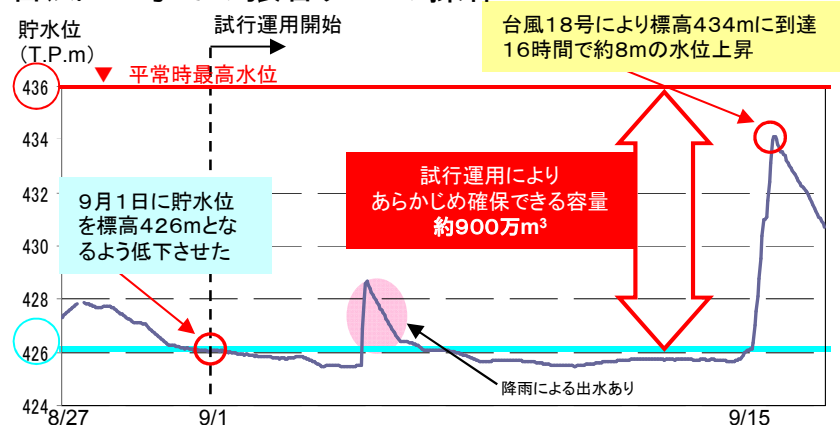


## ※猿谷ダムの試行運用とは

洪水貯留機能を有していない猿谷ダムにおいて、9月1日から10月31日の間、流入量が1,000m<sup>3</sup>/sを超える洪水が予想される場合に、標高426mを目標に事前にダムの貯水位を下げることで、空き容量を確保し、洪水時の放流量を低減します。

9月1日から9月15日は標高426mの貯水位運用を行うこととしています。

## 台風18号での猿谷ダムの操作



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。